



よるんちよう 議会だより

第149号

2023年／令和5年11月22日

発行 与論町議会
編集 広報常任委員会
〒891-9301
鹿児島県大島郡与論町茶花1418-1
TEL 0997(97)3201
FAX 0997(97)4196



ハレルヤこども園の運動会

採択した陳情、意見書

(P3)

与論町議会構成

(P4)

決算審査での主な質疑

(P5～P8)

決算審査意見の申し入れ

(P9)

一般質問

6人が登壇!町政を問う

(P10～P15)

9月
定例会

一般会計予算は 52億7763万円

(1億7662万円追加)

主な補正

一般管理費	△4420万円
障害者福祉費	527万円
町債管理基金費	1億0548万円
学校校舎等建築促進基金費	4000万円

令和五年第三回定例会を九月二十八日から十月十二日までの十五日間の日程で開いた。九月二十八日は新町長の所信表明の後、議案審議が行われ、条例5件、補正予算3件、その他3件が可決された。専決処分2件の承認後、同意2件に同意し、副町長に山下哲博氏、教育長に中山義和氏が選任された。その後、人権擁護委員の推薦を適任と認め、令和4年度決算認定7件を決算審査特別委員会に付託した。

十月十日の一般質問では、6人の議員が町政全般について活発な議論を交わした。

十月十二日は最終本会議を開き、決算認定7件を認定し、条例1件、補正予算1件を可決した。その後、陳情2件を採択し、発議2件を可決した。

一般会計補正予算

会計名	補正前	補正額	計
一般会計	51億0101万円	1億7662万円	52億7763万円

特別会計補正予算

会計名	補正前	補正額	計
国民健康保険特別会計	6億9599万円	26万円	6億9626万円
介護保険特別会計	6億7891万円	1499万円	6億9391万円

国民健康保険特別会計・介護保険特別会計補正予算については、切り捨てにより合計額は一致しない。

採択した陳情・意見書

◎森林環境譲与税の譲与基準の見直しを求め
る意見書について

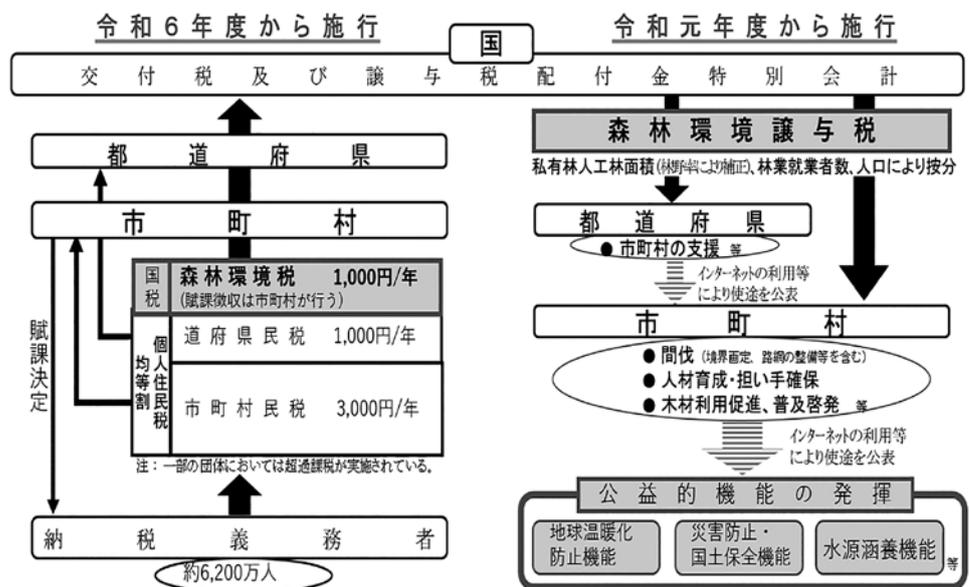
陳情者
鹿児島県町村議会議員
会長 宮之脇 尚美

採択理由

森林の多い鹿児島県において、防災上の観点からも関心を持つべき内容であり、採択すべきものと決定した。

森林環境譲与税の譲与基準の見直しを求める意見書

森林環境譲与税は、我が国の温室効果ガスの排出を削減するとともに、災害防止等を図るため、森林整備等に必要な地方財源を安定的に確保する観点から創設されました。国から配分される市町村への譲与税の用途は、間伐や人材育成・担い手の確保、木材利用の促進や普及啓発等の森林



整備及びその促進に関する費用に充てることとされています。また、国は、森林の保水力低下に伴う洪水氾濫や山腹崩壊等に加え、停電の原因となる倒木等に
対応するため、森林環境譲与税を増額し、森林整備を促進させるとしています。
しかしながら、森林環境譲与税の譲与基準は、私有林人工林面積

(10分の5)、林業就業
者数(10分の2)及び人
口(10分の3)に基づ
き算定されるため、人
口の多い都市部への配
分が多くなることや、
森林整備には使われず
に基金に積み立てられ
ているなどの問題が指
摘されており、現行の
譲与基準を維持したま
までは、早急な整備を
必要とする森林を抱え
る地方自治体への適正
な配分が行われず、防
災上の観点からも、森
林整備を促進する財源
とされた趣旨を損なう
ことが懸念されていま
す。よって、国におか
れては、森林環境譲与
税について、林業に係
る財政需要の大きな地
方自治体及び地球温暖
化防止機能・土砂災害
防止機能・土壌保全機
能などの公益的な機能
を有する過疎地域、半
島地域、離島地域に対
し、特段の配慮がなさ
れるよう、譲与基準の

見直しを行うことを強
く要請します。

以上、地方自治法第
99条の規定により意見
書を提出します。

令和5年10月12日
鹿児島県与論町議会

◎令和6年度理科教育
設備費等補助金予算計
上についてお願い
陳情者

公益社団法人 日本理
科教育振興協会
会長 大久保 昇

採択理由

本町の小中学校にお
いても、観察・実験機
器の不足があることか
ら理科教育整備費等補
助金事業への積極的な
取り組みを図り、予算
の増額計上を行い、理
科教育環境向上に努め
ることが必要であると
の結論に達し、全会一
致で採択した。



議 会 構 成

議 長	副 議 長	監 査 委 員
沖野一雄	原 栄徳	福地元一郎

総務厚生文教常任委員会

委 員 長	副 委 員 長	委 員		
林 隆 壽	林 敏 治	福地元一郎	大田英勝	沖野一雄

環境経済建設常任委員会

委 員 長	副 委 員 長	委 員		
野口靖夫	原 栄徳	南 有隆	喜山康三	吉田 剛

広報常任委員会

委 員 長	副 委 員 長	委 員		
大田英勝	南 有隆	原 栄徳	林 隆 壽	喜山康三

議会運営委員会

委 員 長	副 委 員 長	委 員		
野口靖夫	林 隆 壽	原 栄徳	大田英勝	林 敏 治

沖永良部与論地区広域事務組合議員

南 有隆	喜山康三	林 敏 治
------	------	-------

※ 9月3日に行われた与論町議会議員補欠選挙で当選した吉田剛議員が新たに環境経済建設常任委員会の委員に就任した。

令和4年度 決算審査での主な質疑

決算審査特別委員会

一般会計

総務企画課・会計課

問 地域おこし協力隊を漁業振興のために、漁協でも活用するよう要望していたがどうなったのか。

答 漁業関係については、産業課、漁協にも聞いたが、受け入れ体制が整備出来ていないということだった。年度途中からでも、希望があれば企画を作り採用出来る余地はある。



漁協での競りの様子

問 ふるさと納税推進費は、若干企画が変わ

わっている。変わった部分の説明と寄付件数は増えたが寄付額が下がった理由は何か。また、高額な返礼品を与論町自体で力を入れて開発していく必要があると思うが。

答 変わった点は、今年の10月から必要経費が5割を超えないようになった事である。高額返礼品については、最近与論アイランドビーフ事業所が企画・検討を進めている。

問 町政要覧の与論町のあゆみの記述で、間違っている点が数カ所ある。再度、精査して次回の発行の時にはより正確な形で出してもらいたい。

答 町政要覧、与論町誌も含めて間違いがないよう再チェックを行う。

問 消防職員が子育てや諸事情で休暇を取った場合、隊員のローテーションに無理を強いている実態がある。増員について以前から要望しているが、検討はしているのか。

答 ギリギリの体制での運営だと承知しており、各町2名ずつ増員すると聞いている。

問 台風時の避難場所として各自治公民館を利用するため、年次的にガラス窓にシャッターを取り付けることはできないか。

答 避難所の開設は、茶花小体育館、砂美地来館、福祉センターを想定している。一部自治公民館も活用しているが、ガラス窓が怖いとの声も聞いている。各自治公民館とも、老朽化による建替え時期

も来ており、どのような形で進めていくか総合的に検討していきたい。



東区自治公民館

問 近年、庁舎建設、クリーンセンター、し尿処理センターなど大型事業が行われている。さらに、学校給食センター建設計画などもあり、財政見直しはどうなっているか。

答 令和4年度で与論町の借金の返済額は元金と利子合わせて6億3000万円ほどである。町予算の1割以上を占めており非常に財政的にも苦しい状況となっている。差し

税務課

迫っているのは給食センター、その他に学校校舎、こども園、中央公民館、図書館も老朽化が進んでいる。また、各集落公民館といった様々な公共施設も修繕段階。また、共同霊園などもある。今後、公共施設の総合管理計画を策定し財政状況に留意しながら進めていく。

問 コロナ禍での徴収率を上げるために、率直にどういう苦勞があったのか。

答 納入通知書を出すだけではなく戸別訪問や納付相談、財産調査等も行う。何度も電話したり、生活困窮者への配慮が大変である。

問 現在、与論町に軽自動車は何台あるか。

答 令和4年度は4948台、内公用車

や障害者等の減免車両が127台、課税台数で4821台である。

健康長寿課・保健センター・包括支援センター

問 若年等の基本健診が69名とあるが、受診者の数は今後増える予想はあるのか。

答 令和4年度の受診率は41パーセント、人数的には減ることはなく少しずつだが上昇傾向にある。

問 介護保険制度が始まって20年以上経過、町内において事業者の参入が相次いでいる。介護サービスの需給などはどの様な状況か。

答 ケアマネージャーの不足で県からのアドバイスを受けて毎週火曜日にケアマネの試験に合格すべく対策を講

じている。在宅医療や在宅介護サービス事業も立ち上がり、島外から参入希望の問い合わせもある。配食サービス事業所も3ヶ所に増えている。



多機能ホーム フウイ・ドゥール

問 日曜日の配食サービスの要望があるが、どう対応するのか。

答 配食サービスは月曜日から土曜日まで昼と夕方に行っている。日曜日配食の要望も多くあるが事業所のスタッフ不足で難しい状況である。

町民生活課・子ども園・児童発達支援センター

問 昨年の出生が27件、子育て支援総合事業費では第1子から第5子までの合計が24件になっている。数の違いの理由は。

答 子育て支援金は与論町に住民票を置いてから1年間経過したお子さんが対象になるので、人数が減ることがある。

問 外国人登録事務処理とあるが外国人の滞在状況は。

答 令和5年8月現在で19名、中長期在留なので永住ではないと思っているが、詳細は後程回答する。

問 火葬場要員2名体制を要望したが、どうなっているのか。

答 1名体制での運用が危うい事は承知しているが、採用に至っていない。企業への委託、指定管理方法等、別の方法がないか前向きに検討を進めたい。



改修中の火葬場

問 子育て支援総合事業費の支給時期と額について説明を。

答 支給時期は出生時、小学校入学時、中学校入学時、中学校卒業時の4回である。第1子は4回総額で10万円、第2子は20万円、第3子は50万円、第3子以降は10万円ずつ加算される。

環境課

問 現在、与論町の合併浄化槽設置軒数は何軒あるか。設置が必要な軒数は何軒あるか。

答 浄化槽は700世帯で集落排水等を合わせると1400世帯程度である。800世帯が未設置と試算している。

問 景観条例の進捗状況はどのようになっているか。

答 9月26日に第2回の検討委員会を開催した。方向性として10月に町民含めて町歩きを行い、守っていききたい風景について意見を聞きながら計画案等を練っていく予定である。ワークショップ、地域での説明会、全体会で議案を作成し3月議会での提案スケジュールで進めている。

商工観光課

問 宿泊施設におけるDX化推進で、チェックインシステムの開発と宿泊データ収集分析システムの導入、タブレットの導入、宿泊施設へのサポート、先進事例の研修会等を行ったようだが、進捗状況はどうなっているか。

答 観光庁が作った宿泊データ分析システムにヨロン島独自のオンラインチェックインシステムを組み合わせて、デジタル化と宿泊データの集計分析が即時にできるシステムを導入した。今年度はサポート体制を充実させ、利用促進に取り組んでいく。

問 与論島と沖縄北部地域との連携は、国頭村以外の他の市町村との交流は検討しているか。

いのか。

答 今年度に新たに与論沖繩北部推進協議会を立ち上げ、国頭村を初め本部町、大宜味村との交流活動を推進していく。

教育委員会

問 茶花小学校のトイレが非常に汚く、改修する時期に来ている。今後どのように考えているか。

答 小学校のトイレは、一昨年与論小学校の旧幼稚園側のトイレを改修しており、茶花小も一昨年一部改修している。国、県からもトイレの洋式化についての調査等もあり、古いところから順に改修を行っていく。

問 給食センターの運営についてはいろいろな課題があった。新築建替えの案件もある。

今までの懸案事項を検証して設計の中に織り込む必要があると思うが、どのように進めているのか。

答 建設についてはなかなか進んでいないが、現在基本構想を策定している。調理員不足の問題とか、快適に仕事に励める設備充実などを基本構想に織り込んで進めていく。



老朽化した給食センター

問 地域部活動推進事業については、昨年度サッカー、剣道、卓球、吹奏楽の部活で順調にやってみてもらった。事業を進める上で困ったところ

とはなかったのか。今後も続けるのか。また、他の部活にも広げていくのか。

答 地域部活動推進協議会を教育委員会主体で作っており、この中で地域移行を進めている。与論町は先駆的に進めているが、活動には人材確保が難しいところもあり、現在は学校と地域の方が出来る範囲で協力していくというイメージで推進を図っていく。

建設課

問 あちこちに廃船の墓場のようなところがあり、魅力ある観光地を目指す本町にそぐわない。何とかならないか。

答 観光地として廃船は何とかならないかと苦慮しており、環境課や総務企画課とも連携しながら、対策を講じ

たい。

問 茶花B&G沖の水路、通称電報口の灯台が壊れている。ダイビング業界や漁師の方から再設置の要望が来ている。

答 漁協と話を進めながら検討しているところである。



与論港待合所

問 港の待合所の活性化について提案したい。待合所に人が集まらないのは港で乗船券を販売しているからである。港での販売をやめて、待合所だけの販売にすると必ず待合所は活性化する。沖繩の

本部港のように送迎バスを導入することを検討してもらいたい。
答 県や運送店とも協議し、前向きに検討したい。

問 朝戸地区に住宅整備を要望して久しくなる。来年度には事業に取り組んでいただけるのか。

答 町で家賃を決めたり、一人入居、子育て世帯への優先条件付けができる独自の柔軟に運用できる住宅建設を検討している。建設は住宅整備基金の状況を見ながら進めていきたい。

耕地課

問 農林水産業費分担金で、5百万円以上の不納欠損額が出ている。徴収が難しい要因について説明を。

答 サング礁排除事業

で極めて古い事業の為、世代交代もあり回収が厳しいと判断した。また圃場整備では、納得がいかないの苦情の中で、徴収業務が困難を極め、長年にわたって未収金として残っていたものである。

問 コイン給水施設等の水質検査の結果について伺いたい。

答 令和3年度から、ため池は年7か所、コイン給水施設は年3か所の水質検査を行っている。コイン給水施設については、窒素分が高い状況にあり、地下水の栄養化が進んでいる。

問 現在ため池が24か所あるが、あといくつくらい必要だと考えているのか。

答 ため池については、県営の畑地帯総合整備

事業の畑かん事業に合
わせて整備している。
それ以外で、空港周り
とか別の目的で整備し
たものもあるが、ほとん
どは畑かん事業の受益
面積に応じた形での整
備である。令和6年度
で第3那間地区が採択
されれば、そこにも必
要だし、立長伊波地区
の事業が始まれば、そ
こにも必要になる。

産業課・農業委員会

問 敷料化ラブセン
ターでの敷料販売が
665トンとなってい
る。販売額はいくらに
なるのか。また、敷料
を使うことによつてど
のような効果があるの
か。
答 販売額は配達
料込で1立米あた
り2000円。昨
年度の決算額は1、
395、500円と
なっている。牛糞に混
ぜることで通気性や発

酵が良くなり、水分調
整も含め畜産農家で作
る堆肥の発酵が早まる
メリットがある。また、
糞尿の流出防止の軽減
による環境への対策、
他には牛の感染症や病
気予防に効果がある。



敷料化ラブセンター

問 与論特産品の開発
とあるが何を開発した
のか。町民から何をし
てるのか。成果がなか
なか見えないとの声が
ある。

答 クラフトコーラと
いうコーラの原液を開
発した。炭酸水で希釈
して飲むもので、キビ

ザラ、薬草、ハーブ等
が入っている。他に黒
糖で作った黒糖棒、有
機で育てたマンゴーや
島バナナのジャム等も
作っている。これらに
ついて、東京の有楽町
で市場調査や販売も行
なっている。

水道課

問 水道設備の老朽化
が進んでおり設備更新
に伴い水道料金の値上
げは避けられないと思
う。今後の水道料金に
ついて、どのように考
えているのか。

答 浄水場だけの建て
替えで20億。配水池及
び管路関係などの更新
もある。今後、多額の
投資が見込まれる。財
政負担と水道料金値上
げを抑えるためにもい
い条件の補助事業導入
の調査、検討を行って
いる。また、徹底した
コスト削減にも努める

が、料金値上げもやむ
を得ない。

特別会計

**国民健康保険・後期
介護保険・医療保健
高齢者医療保健**

問 現在ヤングケア
ラーやビジネス介護
等、家族に重い負担が
かかっている。どのよ
うな対策を考えている
のか。

答 家族に対する支援
の必要性は認識してい
る。社会福祉協議会で
は介護保険の認定をさ
れた方のみ支援を行
行っていたが、家族に
対する支援も自費での
介護保険サービスが出
来るようになり、9月
から介護保険認定され
ていない方にもサービ
スをスタートしてい
る。

問 集落サロン活動へ

の支援とあるが、どの
ような活動なのか。ど
こでするのか。

答 集落のサロンに関
しては、基本的には全
て集落の自治公民館で
行われている。各9集
落にサロンがあり、他
に福祉センターで行う
ストレッチ教室のよう
なサロンもある。

問 一人あたりの医療
費が年々上がつてい
る。これは物価の高騰
によるものなのか。医
療費の高騰によるもの
なのか。

答 一人あたり医療費
の上昇は、本町の場合
若いときの医療費は少
ないが、後期高齢にな
ると県下でも高い位置
にある。与論の場合我
慢強い人が多く、重症
化してからの受診が多
い傾向があり、医療費
の増加の原因になって
いる。今後、早期発見、
早期治療に取り組んで

いきたい。

と畜場特別会計

問 今の使用料で本当
に大丈夫なのか、見直
す考えはないのか。

答 使用料に関して
は、これが何百頭とか
であれば少し上げよう
という気にもなるが、
33頭だけなので上げて
も全体で数千円しか変
わらない。そこは利用
者の利便性も考えて当
面利用料は据え置きで
考えている。



と畜場

※紙面の都合により、
質疑の掲載は一部と
なっている。

令和4年度決算審査意見の申し入れ

令和4年度決算審査の結果、町議会としての意見を集約し、次々とおり議長から町長と教育長に申し入れを行った。

意見

1 地域おこし協力隊の活用が地域産業の振興に大きく役立つものと考えられる。活用の構想を練り、地域産業との融合をはかり、協力隊の募集に積極的に取り組んでもらいたい。



決算審査意見の申し入れ

消防業務には、支障がないよう人員の確保が必要である。また、防災避難所として使用の地域公民館施設の防災強化に取り組む必要がある。

2 町民の、納税意識の向上に努めること。納税者の理解を深め、滞納者へ意識させる督促の工夫など、不

納欠損が生じないよう、納税相談を進めて行くこと。

3 福祉のサービスは、全体へのサービスと個々のニーズに

限られた人員ではあるが、すべての町民がサービスを享受できるように、改善や制度の活用を努めること。また、集落サロンの活動を充実させ、高齢者の心身の健康増進に努めていくこと。

施設を適正に管理運営し、施設の延命、ランニングコストの軽減に努めるよう要望する。景観条例制定は、情報の公開と早期制定を要望する。

5 デジタルチェックインシステムを有効活用し、集積できたデータを基に観光戦略をたて、早期に取り組んで持続可能な観光地としての方向性を示し導くよう取り組んで頂きたい。

6 高校存続のため離島留学受け入れに取り

組んで頂きたい。施設の建設や設置、管理者を置くなど、今までの経験を生かした新たな取り組みを進めてもらいたい。

7 魅力ある観光地構築のため、放置されている廃船・漁船等の対策、対応が必要となっている。

8 不納欠損の生じている分担金について、適切な処理をおこなう

ため池・コイン給水施設の水质検査について、疑問のないよう検査を行うとともに施設の維持管理に努めること。

9 有害鳥獣や、ミカシキジラミ等の駆除や防除の事業は引き続き事業を継続し根絶する努力をすること。

死亡獣畜処理については、国や、県に補助事業制定を引き続き要望し、現状の改善に努めて頂きたい。

10 浄水施設新プラント建設に向けた取り組みや、漏水対策としてスマートメーターの導入に取り組んで頂きたい。

一般質問

6人の議員が登壇、町政を問う

町長 物価高騰・人手不足対策を図れ
経済負担の軽減・魅力ある島づくりに努める。



南 有隆議員

**与論町の経済と
人手不足対策**

南議員 コロナも落ち着きつつある中で島内の経済状況は物価高やガソリンの高騰・食料品の値上げなどにより生活が困窮状態にある。物の値段が高いと買い控えが増え与論町の経済が回らなくなってしまう。今後どのような対策が必要だと考えるのか伺いたい。

町長 物価高騰による商工観光業への影響

は、食費やアメニティ関係の高騰による宿泊料金の値上げがサービスの低下に繋がることに懸念される。農業振興の面でも、燃料や肥料、配合飼料をはじめとした資材の高騰により農業経営を圧迫しているが、国・県において実施している価格高騰対策事業等を積極的に活用していく。

また、子育て支援の充実・強化の観点から、子育て世帯の更なる経済負担の軽減を図ることも必要である。

南議員 相変わらずどの業種も慢性的に人手不足・後継者不足が続いている。問題を解決するためには働き手を増やす必要がある。そ

の為には子育てしやすい町・住みやすい町などの島の魅力づくりをして人口増に力を入れるべきだと考えるが見解を伺いたい。

町長 UターンやIターンを促進し働き手を島に呼び込むほか、「子どもを産み育てやすい島づくり」など魅力ある島づくりを推進する。本町は住宅不足が喫緊の課題だと認識しており、令和4年度に策定した「住生活基本計画」に沿って住宅不足の解決に向けた取り組みを行っている。

今後は、空き家を活用したサブリース事業や住宅整備基金等を活用した町単独住宅の整備についても取り組ん



与論経済の中心の銀座通り

でいく。福祉分野における人材育成としては、令和3年度から導入している在宅人材育成事業による事業所の開設支援や資格取得のための勉強会や研修会等を実施し、与論町介護資格者確保対策補助金を活用した有資格者の確保に努めていく。

町行政サービスや情報発信のデジタル化
南議員 デジタル社会

の中、行政サービスや情報発信はSNSやソーシャルメディア等が利用されている。島民一人一人が情報共有ができ、DX化に対応し、不便なく利用できる環境整備が必要だと考えるが見解を伺いたい。

町長 行政サービスや情報発信については、町民に対してアプリを活用した情報発信が出来るよう準備を進めている。高齢者やアプリを使うことが難しい人向けには、各主要施設等へモニターを設置する場を設けることも検討している。

各種証明書発行等のデジタル化も、紙で受け付けていた申請をオンラインで受け付け可能とすることで、待ち時間の短縮や柔軟な時間対応ができるよう整備を進める。

主要政策「子育て支援」の財源は

町長 政策の見直しと整理で財源確保に努める。



喜山康三議員

町長が掲げる主要政策

喜山議員 「子育て支援」施策は多岐にわたる。どのような施策に重きを置くつもりか、財源はどうするのか。

町長 医療費、保育料、給食費等の更なる負担軽減を検討する。財源については、今ある全ての政策の見直しと整理を行い財源確保に努めていく。

子育て支援の大きな目的の一つは、少子化に歯止めをかけ、子どもの数を増やすことにあり、子育て支援策の充実強化だけでは不十分と考えている。若者が与論に來たい、与論に住みたい、与論で子

どもを育てたいと思える魅力的な島づくりが必要で。そのためには、観光や教育をはじめ、あらゆる分野の総合的な発展が大事だと考える。島の総合力を発揮して、10年後を見据え、少子化対策に取り組んでいく。

喜山議員 貴重な自然環境をしっかりと守って

いける施策展開とある。放置船をはじめ産業振興の陰に海浜及び背後地破壊など貴重な自然破壊が進んでいる。現在までの事業の在り方についてPDCA、いわゆるPlan（計画）、Do（実行）、Check（評価）を行うとともに弊害除去と再生事業Action（改善）に取り組む必要があると考える。見解を伺いたい。

町長 現在、景観条例制定に向け準備を行っ

ている。沢山の放置船が見受けられ、景観及び安全面において支障を来している。今後も漁船については与論町漁協と連携・協力し、その他の放置船についても週報等での啓発活動を行うなど、貴重な自然環境を守っていきけるよう取り組む。

喜山議員 「暮らしを守る対策」に諸施策を

掲げている。凸凹、蛇行、センターラインや路側帯がかすれ、カーブや変則交差点が多い本町の道路事情は危険が一杯だ。安全道路構築に向け施策と対策を急ぐ必要がある。

町長 法面の崩落・舗装道路の陥没及びわだ

ち等が見つかれば安全対策を行い、優先順位をつけて対応している。主要道路については、社会資本整備総合交付金、防災・安全交

付金等を活用し財政に負担の少ない方法で整備を進める。



東区の事故多発道路

新供利港建設

喜山議員 抜港、欠航対策として新港建設が取りざたされているが見解を伺いたい。

町長 抜港、欠航、条件付き運航対策は重要な地域課題だと考えている。対策については、今一度各手法の効果の検証を鹿児島県、運航事業者及び有識者、何より町民に広く聞きながら検討する。

喜山議員 供利港はサンゴが繁茂し、冬季の波が荒い時の唯一のダイビングポイントである。港湾建設に伴う湾内サンゴ破壊が進み、観光産業振興に大きな打撃を与えるのは必至である。関係業者及び地域住民からの意見聴収はしたのか。

町長 与論港供利地区はサンゴ礁が発達しダイビングポイントとして利用されている箇所が複数存在しており、冬季を含めた年間を通じての利用が可能な海域となっている。

当該海域を利用するダイビング事業者への意見聴取を複数回実施しており、環境破壊への懸念や事業への影響を心配する意見ももらっている。引き続き各事業者や住民の皆様の見解を聞き、全方位的に検討を進めていく。

YM菌活用による堆肥化を推進するのか

町長 YM菌の導入は非常に難しいと考えている。



福地元一郎議員

共同墓地(納骨堂)

福地議員 先に行われた町長選挙で、「田畑候補には何も政策がない。」と言う相手候補の応援弁士がいたそうで、演説を聞いたある独居老人から、「共同墓地もできないのか。」と心配の電話があった。「継続事業だからそんなことはないと思う。」と答えたが、確認のため伺いたい。町長はこれまで共同墓地(納骨堂)建設を継続して進めていく考えか。

町長 共同墓地は、墓のない人の納骨先とし

て、また、墓じまいや無縁墓の改葬先として、これからの時代、本町にも必要な施設であると考えており、共同墓地の整備は、山前町政を引き継ぎ、早期整備に向けて取り組んでいく。

YM菌活用による堆肥化実証実験

福地議員 増え続ける牛に糞尿処理が追いつかず、処理を促す目的で堆肥センターでYM菌活用による堆肥化実証実験が行われたが、実験の結果はどうだったのか。また、今後もYM菌活用による堆肥化を推進するのか。

町長 議会からの提案を受けて、原料となる牛糞にYM菌の種菌を混合し超高温好気性発酵により短時間で堆肥製造が行えるかの実証実験を行なった。実験

の結果は、現在4ヶ月から5ヶ月かかる完熟堆肥製造が45日間で製造出来る結果となった。

一方で、このYM菌を活用して堆肥の生産を進めていくためには、導入前に数億円規模の設備投資が必要であり、導入後も年間数千万円のランニングコストの町負担がある。



YM菌堆肥の積み込み状況

さらに、種菌の購入費用や鹿児島からの輸

送コストなど、数千万の費用負担が継続していくので、YM菌活用による堆肥製造方法の導入は非常に難しいと考えている。

福地議員 実験の内容をおさらいすると、農家から運んできた原料31・15トンにYM菌53・45トン混ぜて発酵させた。ところが、発酵させてできあがった堆肥は51・15トンで総重量から33・45トンも減っていた。減った原因は、畜産農家から運んできた原料の約8割が分解してなくなっていたからで、残っていたのはほとんどYM菌で、それも粉塵の状態、畑に散布できる状況ではなかったということであった。

ちなみに、YM菌を運ぶ専用貨物船1回のチャーター料は

1000万円で、接岸できない場合は、1日90万〜100万円の追加料金が発生し、菌の購入には億に近い金額が必要になるといふ。

また、購入したYM菌を貯蔵して置く大きな倉庫も必要となり、さらに関連施設整備に数億円が必要になる。新たに発生する町費負担分の運営費とは別途で、これらをすべて受益者負担にすると、現在、1トンにつき500円を徴収している畜産農家の負担が、1万円から数万円まで跳ね上がることになる。そつなると誰も、堆肥センターに原料を持ち込まなくなるのが懸念されるのだから、慎重にことを運んでもらいたい。

副町長 課内でも検討中であるが、しっかりと見定めていきたい。

少子化、子育て支援をどう進めるか

町長 政策立案能力の強化を図り進めていく。



林 敏治議員

少子化、子育て支援対策

林議員 町長は、想いどろ力、みんなが輝く島づくりを掲げ、少子化対策、子育て支援など、子育て家庭が安定して生活できる環境を整えて、民間と連携した臨機応変な支援サービスの提供や、男性も子育てに参加しやすい環境づくりなど、未来へ繋ぐ10年後飛躍する島づくりをどのような手順で計画的に推進していく考えか。

町長 政策形成の一般的な手順としては、大きく政策形成、政策実施、政策評価の3つに分けて捉えることができる。

具体的には、問題の提起、課題の整理、目標の設定、政策原案の決定、そして町長の決定や議会の決定等を経て政策の実施となる。

計画の形態としては、総合振興計画のような総花的な計画ではなく、設定した目標達成のための戦略的な計画が必要となってくる。このようなことから、各部署の政策立案能力の強化を図るとともに、担当職員や課長を中心としたプロジェクトチームで計画立案に当たり、企画調整会議等を経て政策決定し、政策を実施していくという流れを構築したいと考えている。また、職員の政策形成能力の向上を図るため、市町村職員中央研修所（市町村アカデミー）等への派遣などの職員研修

も積極的に推進していきたい。

青年団、老人クラブの年齢引き上げ

林議員 現在、少子高齢化、人口減少が進展する中、本町において青年団活動や老人クラブの活動が行われているが、青年団を18歳〜35歳までと、老人クラブを65歳以上または70歳以上と年齢を引き上げる考えはないか。

教育長 現在、与論町連合青年団は、与論町内在住の18歳から29歳（高校生を除く）の団員で組織されている。年齢は青年団規約で定められており、町で決定することはできないが、10月1日時点の18歳から29歳までの人口は190名で、年齢を引き上げなくても、魅力ある青年団活動を推進することで団員の数を増やすことは可能だと考える。また、与論町老人クラブ連合会の年齢は、会則において「満60歳以上」と定められており、「鹿児島県老人クラブ連合会」及び「全国老人クラブ連合会」も概ね60歳以上となっている。年齢の引き上げは、青年団同様に町で決定することはできないので、老人クラブの意向に沿いたい。

琴平神社境内の環境整備

林議員 先日、琴平神社境内において、十五夜豊年祭や大島地区相撲大会が盛大に行われたが、土俵のやぐらが老朽化しており改築する必要があると痛感される。また、トイレに行く通路に外灯を設置してほしいと町民の声があるが、どう対策を講じていく考えか。



改築を指摘された相撲場

教育長 琴平神社境内の相撲場は昭和53年に建築され、老朽化がすすんでいる。大規模な改築工事は計画していないが、屋根の修繕と塗装の塗り替え等を来年度計画したい。また、与論城跡周辺は美しい星空を守るためのモデル地区となっており、光害を軽減した防犯灯に取り換えを行っている。トイレに行く通路の外灯はフットライトなど、光害に配慮した適切な灯りにしていきたい。

欠航・抜港・条件付き運航の解決策は 町長 あらゆる手法を全方位的に検討していく。



原 栄徳議員

与論港新岸壁 整備の必要性

原議員 近年、毎年の様に欠航・抜港特に条件付き運航が多発し、社会経済活動への影響が深刻な問題になっているが、与論町としてこの問題への解決策をどのように考えているか。また、与論島内及び島外の取引業者等におよぼす経済的な損失は、年間どれくらいのか額だと試算しているか伺いたい。

町長 本町の海上輸送における欠航・抜港・条件付き運航の対策については、所信表明でも述べたとおり、定期

船による海上輸送航路が、外海離島に置かれた与論町の社会経済活動を支える生活インフラとして重要な役割を担っており、島に暮らす全ての方々が当事者となる課題として、定期船の定常運航率の向上が重要である。

昨年度、本町での欠航・抜港・条件付き運航による経済的影響に関する調査を実施した結果、貨物・人員輸送の停滞がもたらす町内各分野の事業者の逸失額が、6・21億円と試算されており、逸失額の低減を図ることは大変重要である。そのため、定常運航率の向上と逸失額の低減を図るために、町民の理解をもらえる方法を選択できるような、施設管理者である鹿児島県及び中央省庁、輸送事業者等と引き続き連携し、対策内容の精査と方策の実施

に取り組んでいく。

原議員 欠航・抜港・条件付き運航に伴う物資供給の停滞による医療活動等への影響について、これまでに発生した事案とその対策に向けた与論町としての取り組み、また今後どのような方針でこの問題の対策に取り組まれるかについて伺いたい。

町長 海上輸送における物資輸送の停滞については、特に危険物輸送での影響が近年深刻化している。令和3年2月には、冬型の季節風の影響による欠航・条件付き運航の発生により、医療用酸素等のガスの供給が停滞し、医療機関での酸素の残存量の逼迫で危機的状況に陥ったため、緊急措置として特例的に巡視船を用いた酸素ボンベ

輸送を行った事例も発生した。こうした重要物資の供給・備蓄対策も、町民の命に直結する重要な課題であると認識している。

町内の医療福祉分野や、施設管理者である鹿児島県及び中央省庁、輸送事業者等と連携し、対策に取り組んでいく。



欠航・抜港・条件付きの多い与論港

活動への影響等、与論町としてこの問題を改善するための方針・解決策について伺いたい。

町長 観光業に及ぼす影響として、修学旅行生の受け入れ中止に伴う事業者負担の発生が挙げられる。また農業における資材移入の停滞や子牛セリ市関係者の来島中止に伴う順延など、主要な産業分野での生産活動への影響は大きく、早急に対応策の推進が必要である。加えて本町の児童生徒の教育活動における島外交流や研修活動の際は定期船による移動が多く、過去には抜港で修学旅行が延期となるなど、子供たちの育成過程における影響の低減も図っていく必要があり、あらゆる手法を全方位的に検討していく。

原議員 欠航・抜港・条件付き運航に伴う人員輸送の停止や1次産業活動への影響、子どもたちの教育及び交流

与論町の基である農業の振興対策を

町長 農業経営のコスト管理の徹底を推進する。



林 隆壽議員

与論町の基である 農業の振興対策

林議員 農畜産物の生産コストを巡っては、ウクライナ情勢の緊迫化や円安の影響で燃料や肥料・配合飼料・粗飼料等生産資材価格高騰に伴い農家の再生産意欲の減退を招きかねない事態である。この状況をどのように認識し、現在どのような対策を講じ、今後どのような対策を行っていくのか伺いたい。

町長 国・県の政策を注視し有効な助成制度の活用を図り、適期・適量施肥の推進や耕畜連携による経費削減と

資源の有効利用の推進、粗飼料自給率の向上を図るなど農業経営におけるコスト管理の徹底を推進していく。

林議員 与論町の限られた狭い耕作面積の中で、過去20年間の農家数の推移は、約170戸程減少している。若い農業後継者への就業促進のための農地集積が急務であると考え

が、これまでの農地集積の進捗状況と、今後の取り組みについて伺いたい。

町長 担い手農家の規模拡大のためには計画的な農地の集積・集約を推進しなくてはならない。令和4年度は12・6ヘクタールの農地が新たに担い手に集積されたが、借り手の希望に対して貸し手の希望の方が少ないのが現状である。今後も離農や規模縮小の意向を

把握しつつ、農地中間管理事業等の活用を推進し、担い手農家への集積を図っていく。

堆肥センターの 適正管理運営

林議員 現在、堆肥原料の牛糞を回収する際に農家が回収料を支払っているが、適切な管理運営ができていないのかとの畜産農家から不安視する声がある。牛の生産が盛んになれば糞尿の処理対策が重要になってくるが、品質向上も併せて、適正管理運営の今後の取り組みについて伺いたい。

町長 堆肥舎などの畜舎環境整備に係る補助事業を継続して行い、敷料化ラブセンターの敷料利用の促進で畜舎環境整備を図ることで、牛の生育環境にも自然環境にも配慮した畜産経営を推進していく。

上水道施設の 石灰問題対策

林議員 上水道施設の石灰堆積問題は、徐々に町民への生活に大きな影響を与えてきている。町の財政的課題により、前進する様子が見えない中で、水道器具の取り替えや修理などに高額な負担がかかり、町民の家計にも圧迫をかける事態が生じている。これまでの対策の進捗状況と、今後の対策について伺いたい。

町長 現在の浄水施設は、約22年が経過し、



改修が必要な浄水施設

町長 現在の浄水施設は、約22年が経過し、

更新が必要な時期に来ており、施設の更新は急務だと考えている。今年度アセットマネジメントを発注し優先順位を判断し更新事業の基本計画を進める。

共同納骨堂建設計画

林議員 現在、町民の声として、家族構成や家庭状況等により、早期建設着工を要望する声が大きくなっている。共同納骨堂建設計画の進捗状況と今後の取り組みについて伺いたい。

町長 与論中学校の西方に位置する奉行墓（ブジョウバカ）と言われる町有墓地が適地と考えている。本年6月には、奉行墓の周辺地権者への事業説明会を開催し、事業計画案への理解を頂いたところである。令和8年度の供用開始を目標に事業を推進していく。

わたしもひとこと



田原 徹晴氏

プロフィール

- 氏名 田原 徹晴
- 住所 与論町茶花
- 役職 沖永良部警察署 与論幹部派出所長

ユンヌの安心・安全を守るため

私が与論島を初めて訪れたのは、平成二十六年六月でした。当時私は、県警本部で災害警備を担当しており、前年与論に台風が連続して襲来し、数多くの建物被害が発生したものの負傷者はゼロ

口という状況に、どのようにして与論では人的被害をゼロに抑えられたのかを確認するために来島しました。

そして住民の自助による早めの避難、お互いを思いやる共助、役場の素早い避難所開設などの公助があり、これらが協和した結果と知り、大変感銘を受けたのを覚えています。

その後、私の警察人生も残り少なくなり、「最後の勤務地は、故郷である奄美で」との希望が叶い、昨年三月二十五日に与論幹部派出所に着任することになりました。

昨年再び飛行機で



与論幹部派出所の皆さん

与論に降り立つ際、眼下に広がる空と海、白い砂浜が織り成すグラデーションに、「やはり与論の美しさは素晴らしい」と感動したこと、を今でも忘れません。

そして、空港に到着

し、多くの与論町民の方々から熱烈な歓迎を受け、人々の温かさに再び感動しました。

我々警察官は、県内各地の転勤先で「土地に惚れ、人に惚れ、仕事に惚れよ。」と教えられてきました。

これは、その土地や人を好きになることで仕事にやり甲斐を持つば、地元の人たちが望む安心・安全を達成出来るという教えであると考えています。

そこで、与論の歴史を知るため調べてみると、与論十五夜踊りで奉納される「あみたばり（雨を賜り下さい）」との願いのように、幾日も日照りが続き、作物は不作、飢饉だけでなく疫病が流行し幾度も危機に瀕した歴史があったことを知りました。

そして、過酷な環境の中、先人達は幾度も苦難を乗り越え立ち上がってきたこと、お互いが我を張ることなく気を遣い合う「優しさ・思いやり」、つまり「誠」の心が生まれたことも

知りました。そして先人達の遺訓であるこの「誠」の心は、今でも与論にしっかりと引き継がれていると日々の業務を通じて感じております。

与論幹部派出所では、今後も与論町の安心・安全を守るため引き続き努力を続けますので、皆様のご協力をお願いいたします。



小学校での交通安全教室

《編集後記》

去る9月24日、二期八年にわたる山元宗町長の時代が幕を閉じた。町長就任以来、クリーンセンター美ら島の建設、天皇・皇后両陛下の行幸啓、役場新庁舎の建設、国頭村との姉妹盟約締結、衛生処理センターの建設等、与論町史に多くの足跡を残した。中でも両陛下の行幸啓は、全ての町民が感動と誇らしさを覚える夢のような出来事であった。勇退した山町長に心からの敬意を表したい。

9月25日には田畑克夫新町長が就任。九月定例会で山下哲博副町長と中山義和教育長が承認され、新執行部がスタートした。新体制の門出を祝し、今後の町政運営での活躍に期待したい。(大田)